

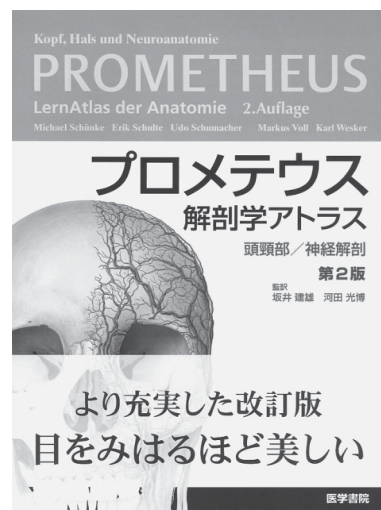
プロメテウス解剖学アトラス

頭頸部／神経解剖

第2版

坂井建雄，河田光博 ● 監訳

岐阜大学大学院教授・解剖学 千田隆夫



昨今次々と出版されている解剖学アトラスには、百花繚乱の感がある。学生諸君には幸福なことであるが、決して安価とはいえない解剖学アトラスの選択に際して、どれか一冊となると随分迷うのではなからうか。その中であって、初版刊行以来、高い支持率を維持しているのが“プロメテウス”シリーズである。本書は、全3巻組の『プロメテウス解剖学アトラス』の第3巻に当たるものであり、初版刊行後わずか5年足らずで改訂第2版が出版された。

初版との相違点を挙げてみよう。第3巻のサブタイトルは初版では「頭部／神経解剖」であったが、第2版では「頭頸部／神経解剖」となった。頭部と頸部が隣接・接続していて、多くの骨、筋、臓器（消化器、呼吸器）、血管、神経が頭部と頸部を続けて貫通している事実を考えれば、頭頸部としてまとめることは理にかなっている。これによって第2版には、頭頸部を一緒に描いた新しい図や、臨床的な解説が数多く追加された。次に、第2版の最後に「中

枢神経系：要約、回路図、まとめの表」が加わった。この新しいセクションには細密画は全くなく、もっぱら模式図、フローチャート、表によって、複雑な事項を要約・整理し、理解を助けることを目的としている。原著者による第2版の序文には、「試験に出題される重要な項目をまとめの形で記す」「試験のための集中的な復習にも役立つ」とあり、洋の東西を問わず、試験に追いつまられる医療系学生の現実のニーズに答えた新機軸であることがよくわかる。これらの増補改訂によって、総ページ数は初版より120ページほど増えたが、定価が初版と同じに設定されていることは、うれしい驚きである。

プロメテウスの支持者に聞くと、一様に「絵が精密で美しい」との評価が返ってくる。プロメテウスの図は美しいだけでなく、技法も革新的だ。第2版の表紙を見て驚いた。頭蓋骨に直接、動脈・静脈がまわりつく図がある。こんな状態に解剖することは不可能なので、これが合成

画であることはわかる。しかし、その頭蓋骨の絵は写実的な肉筆画である。博物画家の小村一也氏（NPO法人 nature works 理事長）によれば、プロメテウスの図版は、「筆致がまったく見受けられないほど細密な肉筆画を基本として、そこに別に描いた血管、神経、筋をレイヤーとして重ねるコンピューター・グラフィックス（CG）技法によると推察できる」そうだ。CG技法によってバリエーションとなる図版を自在に作り出せるため、挿入される解説図が非常に豊富になるわけだ。

単なるアトラスでもなく、記述中心の教科書でもない統合型の解剖学書としての“プロメテウス第2版”を、読者の利便性をさらに高めた発展型として、衷心よりお薦めしたい。

A4変型 頁552 2014年
定価：本体11,000円＋税
[ISBN978-4-260-01441-0]

医学書院刊